

震災復興リーダー支援プロジェクト

Support our Disaster Recovery Leaders - Relieve, rebuild and re-start Japan

経過報告レポート (2016.6.12-2016.9.11)

Contents

- P.1-3 復興支援から地域経済の担い手の育成へ
- P.4 東北オープンアカデミーカンファレンス開催
- P.5-6 今季のトピックス
- P.7 プロジェクトの進捗
- P.7 ご支援ご寄付のお願い

1 復興支援から地域経済の担い手の育成へ



NPO法人ETICは、被災三県の復興や社会課題の解決をめざすプロジェクトリーダーのもと、「右腕」となる人材を送り出してきました。東北で始まった右腕プログラムは、5年を経て、全国の担い手育成のためのプログラムとして広がりつつあります。

今回は、全国に広がりつつある右腕プログラムの取り組みを紹介します。

※こちらの記事は、NPO日本都市計画家協会の会報への寄稿を加筆・修正したものです。

●5年間で約250名の右腕が活躍

右腕の受入先の分野は、地域の雇用を創出する産業、福祉や教育、官民連携のまちづくりや中間支援など様々で、これまでの5年間で約250人の右腕が参画。1年の活動期間を終えた右腕の6割は現在も東北で活動しています。

右腕の担う役割は、時間の経過とともに変化してきました。震災直後は、避難所や仮設住宅における生活支援や、地域の雇用創出のための事業開発が半数を占めました。現在は、事業を地域に根付かせていくための販売促進や商品・サービス開発が半数を占めています。年齢層は20代から50代までで、担う役割の変化とともに平均年齢は上がり、2015年度は30代が4割、20代と40代が2割ずつ。出身地も最近はUターン者が多い傾向にあります。

プロジェクトリーダーへのアンケートからは、右腕が入ることによって、組織の基盤強化、新しい視点の獲得、経営陣の成長につながったという声が多く寄せられました。

受入先の事業規模も、ほぼすべての事業者が震災後の創業にもかかわらず、現在では半数が予算規模5000万円以上に成長し、2割が1億円を超えました。右腕という人材を送り、フェーズに合った事業成長支援も合わせて行ってきたことで、一定の「成果」につながったのではないかと思います。



●東北のノウハウを熊本へ

甚大な被害で多くの命が失われた震災からの5年を振り返り、「成果」という言葉を使うのは、私自身も違和感を感じずにはいられません。ただ、震災によるダメージで10年先の地方の衰退の姿が見えた時、立ち上がったリーダーが今ある課題を最短距離で解決しようと挑む姿に心を打たれ、そこに適切な支援が寄せられることで、被災地域が元気になっていく。そんな現場を見ていて、「日本の地方も捨てたものじゃない」と頼もしく思いました。そこに暗い未来は見えませんでした。そういった意味で、やはり「成果」という言葉を使いたいと思いました。

今年4月に起きた熊本地震では、「熊本復興・右腕プログラム」を、熊本市内にある一般社団法人フミダスと一緒に立ち上げました。現在、西原村や益城町、熊本市内で3名の右腕が活動しています。東北で培ったものを、今後起こりうる災害時に確実に活かすため、今後もデータ分析や、ノウハウ蓄積に取り組んでいきます。



●起業型右腕プログラム

右腕OB・OGのうち、22名が起業し、予算規模1億円を上回る事業もあり、受入先団体の代表や事務局長に就任した右腕も多くみられます。右腕OB・OGが新たに右腕を受け入れる好循環も出てきました。地域での新しい事業の担い手の存在により、雇用を増やし、地域経済を活性化させ、移住促進、出生率の上昇につながれると思っています。

震災から6年目を迎えた今年、右腕プログラムは、より起業型人材に焦点を当ててモデルチェンジしました。右腕期間終了後の起業や新規事業開発を視野に入れた人材を都心部から発掘し、東北へ呼び込むことを目的として、まずは石巻市と気仙沼市でスタートします。

石巻市では、来年開催の芸術祭「リボンアートフェスティバル」と連動した企画として。気仙沼市では行政と連携し、地域おこし協力隊の制度によって行います。これを皮切りに、他の自治体との連携も進めていきます。



●自治体間連携によるローカルベンチャー推進へ

起業志向をもった人材が地域にU・Iターンして、その土地の資源を生かした新産業を創出し、地域がその産業を育てていく。それが繰り返し行われる持続可能なエコシステムを構築できれば、地域の未来は明るいものとなるでしょう。

東北で学びを得たこの構想が、全国で同じ志をもつ8つの自治体の連携につながり、ローカルベンチャー推進協議会がこの9月に設立し、ETIC.は事務局を担います。東北からは、岩手県釜石市、宮城県気仙沼市、石巻市が参加。その他、北海道下川町、厚真町、岡山県西粟倉村、徳島県上勝町、宮崎県日南市が参加し、国の地方創生事業の一環として、これから5年間、協働で事業を行っていきます。

5年後には、それぞれの自治体が人材の確保から起業家育成、事業成長まで担える体制をつくることを目標に、都心部の民間企業との連携や、ファンドの形成も視野に入れながら取り組みます。

2 東北オープンアカデミーカンファレンス開催



昨年134名が東北へと向かい、地域との関わり方や、生き方・働き方を見直すきっかけとなった「東北オープンアカデミー」(<http://open-academy.jp/>)。7月18日(祝・月)に、第2期フィールドワークに参加したメンバーに加えて、第1期メンバーも会してのカンファレンスを開催しました。

●東北オープンアカデミーとは

東北オープンアカデミーは、震災をきっかけに数多くの地域課題に取り組んでいる東北をモデルケースにし、「新しい働き方」や「地方の未来」に関するアイデアとアクションを共有する、学びと実践の場です。所属や立場の垣根を越えた多様な人がフィールドワークに参加して、各現場で先進的な取り組みやそれを実行するリーダーの思いを学びます。

フィールドワークで実生活や将来にも役立つ気づきを得た後は、定期開催されるイベントやセミナーを通して、地域との関わりを継続し、学びを実践するための仲間探しを応援します。第2期となる今年はフィールドワーク先を昨年の岩手・宮城・福島の3県から東北6県全域に広め、開校。各地で20フィールドワークを開催し、115名が参加しました。

●東北オープンアカデミーカンファレンス

7月18日(祝・月)に開催した、カンファレンスは3部構成で行いました。第1部では、昨年第1期のメンバーによるフィールドワーク参加後のアクションについてのプレゼンテーション。フィールドワークをきっかけに東京から東北を支援する活動を続けている人、ご縁があって住む場所・仕事を変えた人など、今でも東北と様々な関わり方をしているという姿を共有して下さいました。第2期メンバーの皆さんにとっては、今後の関わり方の参考になるお話だったのではと思います。



第2部では参加したフィールドワーク毎に分かれて、他のフィールドワーク参加者と互いのフィールドワークでの気づきを共有しました。その後、それぞれが今後どのようなアクションを目指していくか、自身のアクションを紙に書いて宣言しました。

第3部の懇親会では、東北から駆けつけた実行委員・オーガナイザーと東北オープンアカデミーメンバーが入り交ざり、互いの取り組みやフィールドワークでの学びをざっくばらんに共有。今活動している場所、東北オープンアカデミーの参加時期やフィールドワークなどを超えての交流が起こり、新しい繋がりが生まれた1日となりました。

今後は「ラボラトリー」の取り組みとして、東北オープンアカデミーメンバーのアクションを磨いていく「オープンラボ」と、東北を事例に学びを深めていく「リサーチラボ」を開催していきます。

3 今季のトピックス（2016.6.12-2016.9.11）

■右腕合宿@石巻雄勝（9月3日～4日）

9月3日（土）～4日（日）の2日間にわたり、活動中の右腕を対象とした研修「右腕合宿」を開催しました。今回は宮城県石巻市雄勝町にある右腕が活動している「モリウミアス」を会場に、現役右腕18名、OB8名、オブザーブ1名（計27名）が参加。

今回の合宿は（1）普段右腕と顔を合わせる数少ない機会ということもあり、お互いを深く知り、学び合うネットワークを築くこと（2）日々忙しい現場から離れた場所でこれまでの活動を振り返ること、の2点が狙い。「なぜ今右腕として活動しているのか」「前回の右腕合宿からの期間の自身のバイオリズムについて」「12月にありたい姿」など、参加者同士の会話を中心としたプログラムで構成をしました。

「右腕の同志はやっていることが違ってても、理解し合える仲間だと感じた」「他の参加者との対話を通じて、自分が置かれている環境や、自分自身について整理できた」という参加者からの感想が挙がり、今後に繋がる関係性や気づきを得た機会になったようです。参加者アンケートの満足度調査でも、ほぼ全員から「他の右腕に 参加を薦めたい」と回答を頂きました。次回の右腕合宿は2016年12月10・11日、福島県での開催を予定しています。



■みちのく復興事業パートナーズ「事業ブラッシュアップ合宿」（7月13日～14日）



震災から5年が経ち、今東北では復興文脈に頼らない産業づくりや地域の暮らしを支えるサービスを作っていくことが求められています。

みちのく復興事業パートナーズ（注）は、これからの地域を支えていくことが期待される団体を対象とした事業ブラッシュアップ合宿を宮城県仙台市郊外で開催しました。合宿には岩手、宮城、福島から6団体が参加し、先進的な取り組みで実績がある専門家とのメンタリングを重ね、それぞれの事業のビジョンと戦略のブラッシュアップを行いました。

参加した一般社団牧組の渡邊亨子氏からは「目の前の企画に追われてしまい、事業の方向性に悩んでいたが、メンターや企業の皆さんとの議論を通して目指すべき方向性が見えました」との声が聞かれました。

（注）みちのく復興事業パートナーズ：企業が連携し、被災地で復興に取り組むリーダーらを支援する枠組み。ETICが事務局を担い、いすゞ自動車、花王、ジェーシービー、電通、東芝、ベネッセホールディングスが参画している（2016年9月現在）。

■熊本復興右腕プログラム（6月17日～）



4月15日の熊本地震から、早くも5カ月の時間が過ぎました。「熊本復興右腕プログラム」として、一般社団法人フミダスと共に、復興リーダーの元へ3名の右腕人材を送り込みました（株式会社南阿蘇ケアサービスへ1名、西原村復興災害ボランティアセンターへ1名、益城避難所へ1名）。現在も活動を続けています。

また、引き続き、2事業者で右腕人材を募集しています。南阿蘇観光PR事業実行委員会では、震災の影響で村内に売れ残ってしまった農産品の売り先開拓を進め右腕を募集、株式会社くまもと健康支援研究所では、仮設住宅に入った高齢者の生活不活病を防ぐ「くまカフェ」の運営マネージャーを募集しています。

「熊本右腕」のメディア露出により、プログラムの認知が熊本全体に広まってきました。これからは新たなプロジェクト組成も実施する予定です。

関東では熊本地震に関する報道はほとんどされなくなってしまいましたが、復興のスピードは速いとは言えません。支援団体の撤退により、これからさらに復興のスピードが落ちる可能性も十分にあります。熊本地震からの復興は、まさにこれからと言えます。

4 プロジェクトの進捗

2016年9月11日の時点で、146のプロジェクトに248名の右腕人材が参画してまいりました。参画期間（1年間）が終了した右腕人材（社会人に限定）の約67%が継続して被災地に残り、そのうち30名は自ら起業するなど、彼らは被災地での重要な役割を担いつつあります。現役（参画期間中）の右腕とあわせると、現在166名の人材が、東北の担い手として活動を行っています。



5 ご支援・ご寄付のお願い

本プロジェクトについては、スタート以来、国内外の個人・団体・企業の皆様より大きな関心を頂戴し、現在のご寄付・助成金等の総額は、927,762,754円という多額のご支援をいただいております。この場をお借りしまして、改めて心より感謝申し上げます。本プロジェクトは、当初、2013年度末までの3年間を目安に取り組んでおりました。しかし、東北の復興が本格化していく中で、中核事業である右腕プログラムへのニーズは、更に高まってきており、2015年度末までの中長期計画を策定し、取り組んで参りました。

右腕プログラムは、2016年度より新たな5か年計画を設定し、今後の東北の復興、さらには新たな地域創生に向けた取り組みへと進化を目指していきます。皆様におかれましては、「震災復興リーダー支援基金」のPRへのお力添えははじめとして、事業連携や各プロジェクトへの個別のご協力など賜りますよう、引き続きよろしくごお願い申し上げます。

>>寄付ページURL http://www.etic.or.jp/recoveryleaders/donations_support

《ご寄付の受付》

■ Global Giving

<http://www.globalgiving.org/projects/sponsor-fellows-for-tohoku-and-japans-recovery/>

※米国在住の方は、GlobalGivingから寄付していただくと、税控除を受けることができます。

■ American Express (メンバーシップ・リワード)

http://catalogue.membershiprewards.jp/viewAwardDetail.mtw?productId=4487681&categoryName=jp_21a_charity_tohoku

※アメリカン・エクスプレスのカード会員さまは、ポイントによる寄附ができます。

連絡先・お問い合わせ先

◆NPO法人ETIC内 震災復興リーダー支援プロジェクト事務局（担当：山内・押切）

東京都渋谷区神南1-5-7 APPLE OHMIビル4階

mail : fukkou@etic.or.jp Web : <http://www.etic.or.jp/recoveryleaders/index.html>